

愛ちゃん と 希望くん



©中央共同募金会

やわたはま

社協だより

59

平成 28 年 1 月 1 日

《発行》社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会 八幡浜市松柏乙 1101 番地

八幡浜市保健福祉総合センター2階 TEL 23-2940 FAX 23-0506

ホームページは [八幡浜市社協](#) まで

ボランティア・ワークキャンプ



謹賀新年



健康クラブ 寿班



アクティブシニア
ボランティア養成講座



神山地区「さくらサロン」

地域住民の皆さまにおかれましては、新たな輝かしい年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は地域福祉の推進に關しまして、多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

私共八幡浜市社会福祉協議会は、現在第三次地域福祉活動計画の策定に向けて取り組んでおります。本年も、地域福祉という観点から、八幡浜市のまちづくりを住民の皆さまと共に推進していく所存でございます。

本年も、笑顔で、共に歩んでいただきますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

八幡浜市社会福祉協議会
会長 菊池 清之





子育てフェスタで弾ける笑顔 千丈「ティンカーベル」のおもてなし

平成27年10月28日(水)10時より、道の駅八幡浜みなと内みなと交流館にて、千丈地区に拠点を置き活動されている「ティンカーベル」主催により、子育てフェスタが開催されました。当日は、40組104名の親子が来場し、地区を限らず市内外からの参加者がありました。

開催中は、19名のお世話人と出演者により、次々に楽しい催しが展開されました。ピアノの音に合わせた手遊びでは、参加者同士が自然に挨拶を交わせるように工夫が見られました。読み聞かせでは、大型絵本で迫力を出し、子どもたちも一緒に声を挙げました。お世話人扮するマジックばあばのマジックショー、歌のお



♪ 握手でこんにちは ♪



軽やかに奏でられるハンドベル演奏

姉さん2名による歌のプレゼント、ミュージックケアなど、趣向を凝らした催しに、参加親子は笑顔になりました。

上協代表お世話人コメント

千丈地区で実施していた活動を市内全域に広げ、多くの方が楽しく交流できる場を作りたいとの思いから始めたこの取り組みも、今年で3年目となりました。毎年たくさんの親子が集まっています。スタッフ一同喜んでいきます。



子育てサロンお世話人研修会 宇和島市「りんりんサークル」を視察

平成27年度第1回子育てサロンお世話人研修会を開催しました。今回は、お世話人11名が、宇和島市三間町にて子育てサロンを運営されている「りんりんサークル」の視察に伺いました。

「りんりんサークル」は山下美佐子お世話人を中心に週1回、幼稚園・保育所に入る前の親子を対象に開催しています。元保育士である山下お世話人の「親子が地域で孤立するのを防ぎたい。集まる場所が必要だ」という思いから始まった取り組みは、徐々に地域住民の理解を得ながら、今年12年目を迎えています。



山下お世話人より想いをきく



自由に過ごす参加者と交流

開催中のサロンにお邪魔すると、参加した親全員で幼児を見守りながら会話を楽しんでいました。山下お世話人の「自由のびのびと遊んでほしい」という思いが反映されており、平屋造りの建物内を、幼児は楽しんで、時にはケンカが起ころいながらも、あるがままに過ごしています。三間町内には児童館がないため、地区内の親子にとって大切な集いの場所として機能しています。今回の視察を参考に、更なる子育てサロンの発展を目指します。

ふれあい・いきいきサロンの活動ご紹介



朝日の里

地区 日土田之窪

参加者数 12名

介護予防体操講習会の一場面。脳トレクリエーションでは、身体は思うように動かず。こんなはずでは・・・と、大爆笑！

すみれ会

地区 江戸岡

参加者数 29名

元気いっぱい小学生と交流。汗をかきながら、シャッフルゴルフやスイカ割りと一緒に楽しみました。



スタッフ手作りの美味しいお弁当

平成27年10月23日(金)12時より、八幡浜市民スポーツセンター2階サブアリーナにて、白浜地区社会福祉協議会主催による「白浜地区福祉のつどい」が開催されました。参加されたのは92名のひとり暮らしの高齢者。楽しい一時を共に過ごすうと、毎年企画されています。血圧測定や健康相談から始まり、美味しいお弁当を囲みでの会食の後、アトラクションを楽しみました。八幡浜警察署地域課で結成されている劇団「真穴」による「特殊詐欺」についての演劇では、全国的に被害の大きい還付金詐欺について取り上げられ、身近に起こり得ることであると学習



白浜地区社会福祉協議会

「ひとり暮らし老人のつどい」

大勢で過ごす楽しい一時

しました。その後、交通安全について呼びかけられ、反射材や反射バツグのプレゼントもありました。地域の方々と結成され、練習を積み重ねている「ゆりかごの里」による唱歌では、耳馴染のある童謡を歌い、会場に集まった皆さんで口ずさみましました。オカリナ演奏やビンゴゲーム等、盛沢山の催しを楽しみました。最後に招待者代表から招待のお礼と日頃の見守りの感謝の言葉が述べられました。



「ゆりかごの里」による唱歌

県立高校初！ 川之石高校「福祉系高校」に認可

川之石高校は、生徒自身が授業科目を選択することができる総合学科の学校です。「福祉サービスマス系列」を選択した生徒は、介護の知識や技術を身につけるべく、日々勉学に励まれています。しかし、国の制度改正により、平成21年度以降に入学した生徒は、卒業後に実務経験を積まなければ介護福祉士取得のための試験を受けられませんでした。

そのため同校は、授業課程の見直しを行い、平成27年3月、県立高校としては初めて「福祉系高校」に認可され、同年11月に開講しました。2年半のカリキュラムを修了すると、在学中に介護福祉士の資格取得が可能になります。

1年生 大平 将也さん

「実習を積み重ねて、コミュニケーション力を付け、介護福祉士取得に向けて、頑張っていきたいです」

地域でボランティア活動 VYS部

介護福祉士取得に学校も生徒も力を入れていると共に、地域に根差した地域福祉活動も展開しています。

川之石高校VYS部は、39名の部員で活動しています。八幡浜市社会福祉協議会・八幡浜市ボランティア

協議会の共催で毎年開催している『福祉のつどい』や、ふれあい・いきいきサロンでの交流など、地域に出て、地域の方々とのふれあい、高校生らしさを活かした活動を展開しています。

部長 井上 翔さん

「ボランティアをして人の役に立てることは、とても素晴らしいことです。将来、介護の職に就きたいと思っていますので、高齢者や地域の人のふれあいの経験を、活かしていきたいです」

担当教諭 村上典子 氏

「当校は、地域に育てていただいています。必要な時に、必要な人に手を差し伸べられる学校でありたいと思っています。地域の福祉力を高める一旦を担えるよう、努めていきたいです」



人工呼吸器を使って南予で暮らす くみなつとフードコートで楽しくお茶会



お茶会開催時の大谷さん

伊方町在住の大谷由紀さんは、小学生の時に、進行性筋ジストロフィー症の診断を受けました。地元の小学校を卒業後、同じ病気の子供達が通う県外の養護学校に入学し、中・高校時代を過ごした後、大学に進学。大学時代は寮で生活し、卒業後、一人暮らしをしながら5年間事務の仕事が続けました。

全く歩けなくなったのは20歳の時。その時から、車イスや電動車イスを利用し始めました。徐々に病気が進行し、15年前に、呼吸器に症状が出始めたため気管切開をし、24時間人工呼吸器を利用するようになりました。現在はご両親と、同じ病気の弟さんと4人で生活されています。

大谷さんは、ご両親のサポートや福祉・医療のサービスマスを利用しながら生活をしています。定期的になん

の吸引をすることが必要です。しかし現在、近隣市町に在宅で吸引の出来る介護事業所がないことから、たん吸引についてはご両親と松山の介護事業所が担われています。

大谷さん

「介護の必要もありますが、日頃から寄り添ってくれる人がいると嬉しいです」

『人工呼吸器を使って 南予で暮らす人の会』 スタート！

病気の進行とともに、外出の機会が減っていた大谷さん。同じ境遇の人と直接会って話したい、いろいろな人と知り合いたいとの思いから、会を発足しました。不定期ですが、道の駅みなつとのフードコートにて、楽しいお茶会を開いています。

大谷さん

「昨年、小さな会を作りました。事業所さんや八幡浜市社協さんに協力を頂きながら活動をしています。人工呼吸器をつけて、外出するだけでも意味のあることかなあと感じています。伊方町でヘルパーさんを探すことも難しいですが、楽しみながらやっていきたいと思っています」

「わたしが地域でできることって?」

アクティブシニアボランティア養成講座開講中!

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、生活や介護に関するお手伝いが出来る支援者や、地域での見守りネットワークづくりのリーダーを養成すると共に、研修を受講した高齢者自身が健康でいきいきと暮らせることを目的に、愛媛県が主導し、平成26年度から県下の市町で順次開講しています。

八幡浜市では、地域での支え合いを推進するため、平成27年10月29日〜平成28年2月4日まで、22名の受講生と共に全5回の講座を進めています。



「ボランティア」について改めて考える

第1回は、八幡浜市ボランティア協議会会長 木村謙児氏よりお話をいただきました。学生時代に施設で出会った一人の女性のささやかな「希望・望み」を叶えてあげたいという想いが、ボランティア活動の原点であった、というご自身のお話から、八幡浜市での活動の歴史や熱い想いを聞かせていただき、受講生が「私にも何かできるのでは?」「私でも何かの役に立ちたい!」そんな想いを再確認する機会となりました。第2回は、2部構成で実施しました。認知症サポーター養成講座では、認知症高齢者数は八幡浜市内に1,367名おり、市内の高齢者の内8.6人に1人は認知症を有している計算になることを確認しました。その上で、認知症を引き起こす病気や原因疾患、症状等について説明を受け、認知症を地域で支えるということが学ばました。後半には、『ふれあい』のためのコミュニケーションのあり方」と題して、医療リハビリナースセラピストである後藤友美氏より、実践を交えた講義をいただきました。手順に沿ってマッサージを行い、手と手のふれあいを通して心も温かくなる体験をさせていただき、徐々に笑顔に変化していく過程を実感することができました。



後藤氏 受講生の実践に笑顔で助言

住み慣れた地域で暮らし続ける

第3回は、松山市にある宅老所「あんき」の代表 中矢暁美氏による講演を行いました。この日の講座は公開講座とし、受講生も合わせて33名の参加を得て、にぎやかに開催しました。認知症の方とふれあい、行動を共にした実習時代の体験談や、「あんき」での生活等をお話していただきました。「あんき」を利用しながら住み慣れた地域で生活していく中で、その人にとつ

てどうあることが幸せなのか、家族だけでなく地域で考える取り組みを実践されています。

講座の中で、2本のDVDを観賞しました。1つは認知症の当事者と家族が気軽に訪れることができる、月2回開かれる食堂「おいでんか」の取り組みです。介護者同士が想いを共有する大切な場所として機能しています。また、誰でも訪れることができるため、地域住民の交流の場にもなっています。2つ目には、施設の中で、住み慣れた場所での看取りの様子を観賞しました。人生の最期を迎える時に、ご本人と家族に寄り添い、想いを受け止めている様子に感動を覚えました。

地域の中でコミュニケーションを図る際に心がけることを学ぶ機会となりました。



受講生から巧みに想いを引き出しながら話される 中矢氏

残り2回の養成講座では、介護技術についてや、八幡浜市内における支え合いの実践報告を予定しています。

市民とともにまく権利擁護の種 市民後見人養成講座の開講です

「障がいをもつ子どものために、親なき後のことを考えたい」「高次脳機能障がいをもつ方には成年後見制度が必要な方もいる」「ヘルパーとして、高齢者やその家族にきちんと情報提供したい」「市民後見人になりたい」14名の受講者が、平成27年11月7日(土)より全5回16科目の「市民後見人養成講座」を受講しています。今年度で6回目の開催となり、「契約すること、同意と取消」「自己決定を尊重する成年後見人」という新しい科目も取り入れています。

聖カタリナ大学 山本克司教授の講義では、ドラえもんの歌「あんなこといいな、できたらいいな…」から、人権や判断能力が十分でない認知症の方や障がい者の権利擁護の必要性を学びました。木原道雄司法書士の講義では、「療育手帳や精神保健福祉手帳の所持、重度の認知症の診断をもって、悪徳業者は契約の取り消しを容易に認めない。消費被害から予防的に当事者の財産をまもるために成年後見制度を活用することは必要」と事例をもとに学びました。村口毅社会福祉士の講義では、成年後見人が被後見人等の気持ちに寄り添いながら、自己決定・自己実現をサポートする姿勢や技術を学びました。

現在、愛媛県内では市民後見人は誕生していません。しかし本講座の修了生から、社協の法人後見事業の支援員を担い、被後見人の暮らしをサポートをしています。ある支援員は「被後見人とは友だちでも家族でもない関係。しかし、とても大切な存在。会うのが楽しみです」と語られます。

今後、14名の受講生が、八幡浜市に権利擁護の種をまいていただけると期待しています。



真剣に受講する受講生のみなさん



人間を大切に する社会をめざして 第3次地域福祉活動計画の策定を すすめます

平成27年10月26日(月)13時30分から16時、JAにしゅうわスターホールにおいて、平成27年度地域福祉活動推進研修会を開催しました。地域福祉を推進する団体、ボランティア、民生児童委員、地区社協、行政など約150名の方々が参加しました。

本研修会は毎年、様々なテーマを取り上げています。今年度は、地域福祉を推進する人々や団体と八幡浜市社協で策定した第2次地域福祉活動計画(以下、活動計画)の評価・見直し及び第3次活動計画の策定を行います。そのため、淑徳大学 准教授 山下興一郎先生より、活動計画の意義や目的をお話ししていただきました。活動計画策定・推進の目的は「地域の中で、出会いを大切に、最後まで、皆が、地域社会で歩き続けていくために、みんな一緒に生きていくために行動することを明らかにする計画」であると確認することができました。

その後は、地域福祉の推進に従事し、活動計画の策定に関わったパネリストからの活動報告、山下先生とパネリストによる八幡浜市の地域福祉が目指していくもの、役割分担・協働について話しを深めました。今後、地域住民の皆様と社協とが座談

会などを通じて、第3次活動計画の策定をめざします。

【参加者の感想】

・様々な生活のしづらさを抱える人をどのように地域で包摂していくのか、考えるきっかけになった。

・死を人間的成長と捉え、ベストを求めて歩き続けるという山下先生の言葉が印象的だった。



「地域福祉」についてあらためて考えました

ボランティアのこれからを ともに考え、ともに創る 座談会

「ボランティアに取り組む人たちの声を直接活動計画に盛り込みたい」そのために、八幡浜市ボランティア協議会（以下、ボラ協）の加入団体にお集まりいただき、道の駅八幡浜みなつと内みなと交流館にて、「ボランティア座談会（全4回）」を開催しています。

地域で、ボランティアとして、何が出来るか見つめ直す

第1回は、平成27年10月26日（月）午後6時30分より開催しました。この日は、ボラ協会員から「知りた



講演される山下 興一郎 氏

い「知っておかないといけない」と声の上があった『介護保険制度改正』を切り口に、淑徳大学准教授 山下興一郎氏よりお話いただきました。

制度改正と合わせて新総合事業が始まることにより、地域内における支え合いの形が問い直されています。法改正におけるポイントとして、要支援1・2の方に対する福祉サービスが変化していくことを学び、参加する場所と機会があることで、孤立を防ぐ一要因となることを確認しました。孤立している当事者の生活の状態を知り、その人らしさを大切にしながら「いきがい」をもって生活することができる地域にしていく必要があります。

その後、3つの班に分かれて話し合いを行いました。講演内容の感想や、自身がボランティアとしてこれからの地域福祉にどう向き合うことができるのか、本音で語り合いました。

「グループワークでの意見」

- ・年を重ねても何か出来ることを続けたい思いがある。
- ・出来る限り自分らしく生きたい。
- ・今何をすべきなのか。ボランティアの原点に振り返ることが大切。



自分たちにできることを考える

自然に助け合える地域へ ボラ協・市社協の役割

第2回座談会は、平成27年11月16日（月）に開催しました。

この日は、活動計画の趣旨について説明した後、第2次計画に沿いながら市社協が住民や関係機関と共に取り組んできたことをお伝えしました。特に、福祉教育の取り組みや、ふれあい・いきいきサロンの活動、アクティブシニ

- ・ボランティア団体としてどんなお手伝いが出来るのか。自分たちの団体の中で見直しが必要。
- ・総合事業への戸惑いと不安がある。

アボランティア養成講座に重点を置き、報告しました。
第1次、第2次活動計画の策定にも関わっていただいたボラ協会長 木村謙児氏から、策定にかける想いをお聞きしました。普段の暮らしの中で自然に助け合うことの出来るボランティア活動を目指しながら、ボラ協として社会情勢とどう向き合うことができるのか、第2次活動計画の実施状況を受け、考えていくことの必要性を確認されました。

ボラ協と市社協が八幡浜市の地域福祉を推進する両輪であるという共通認識の元、共に悩みながら、第3次活動計画策定に向けて取り組んでいます。



第2回座談会の様子

平成 27 年度 八幡浜市社会福祉大会

とき / 平成 28 年 1 月 23 日 (土)
場所 / 八幡浜市文化会館ゆめみかん
 大ホール
 (※今年度より会場が変更になりました)

本大会は、誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現に向けた活動に、一人ひとりが考え参画する機会と、八幡浜市の社会福祉の発展にご尽力され多大な功績を残された方々に感謝をこめて表彰し、地域福祉のさらなる充実を図ることを目的に開催いたします。

時間	内 容
12:30	開場・受付
13:30	開会 式典 表彰・感謝状贈呈 他
14:30	記念講演
16:00	閉会

記念講演 お気軽にお越しください (入場無料!)

講師 ひなたてい あおい お笑い理学療法士 **日向亭 葵 氏**

演題 「笑いと健康はエアリハで」



プロフィール

奈良県出身、昭和 43 年生まれ。天理大学を卒業後、一年間ヨーロッパへボランティアの旅へ。帰国後はサラリーマンを 7 年半経験し、ある日突然の退職、理学療法士への道を進む。
 理学療法士として、病院や老人施設、訪問リハビリを経験し、約 10 年の経験から生み出した「エアリハ」を考案、「お笑い理学療法士」として独立。生活習慣病予防アドバイザー、終活カウンセラー、認知症ライフパートナー、学習療法士、手話、福祉住環境コーディネーター、音楽療法、アロマセラピーなどの資格も活かし、多彩な講演が好評。



おいては、地域福祉活動に係る移動に利用させていただきます。

生命保険協会は、全国各地に支店を置く、生命保険会社の連絡組織であり、愛媛県協会においては、加盟各社の職員等を対象に募金活動を実施され、集まった資金を基に、県下の社会福祉協議会へ福祉巡回車を寄贈されています。本年は、当会と西予市社会福祉協議会へ「アルト」を寄贈していただきました。本会に



平成 27 年 11 月 末日、生命保険協会愛媛県協会より、福祉巡回車 1 台を寄贈していただきました。

福祉巡回車の寄贈を受けました